

平成 31 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 15	公益目的事業 19
主査名	林 克彦 流通経済大学流通情報学部教授	
研究テーマ	小型貨物を対象とした物流プラットフォーム構築に関する研究	
研究の目的： 本研究プロジェクトでは、宅配便やネット通販荷物等の小型貨物を中心とする物流プラットフォーム構築について、日本国内における動向や先行するアメリカや中国等の事例を実地調査やインタビュー調査により把握するとともに、研究会においてプラットフォーム構築の意義や課題について議論する。		
研究の経過（4月～3月）： 各研究会の議題（報告者） 第1回研究会（4月19日）：①『今年度テーマ：物流プラットフォームについて』（林）、②『タイの宅配便 SCG EXPRESS』（齊藤）、③『ニチレイの海外コールドチェーン GFN（GFPT Nichirei）』（根本）、④『東西経済回廊の現況』（宮武、林）、⑤『JICA ミャンマー資料』（石原） 第2回研究会（6月14日）：①『宅配便の受け取り方に関するアンケート』（宮武）、②『中国ネット通販のラストマイルにおける配送の現状と課題』（齊藤）、③『革命的に変化する物流』（根本） 第3回研究会（8月2日）：①『ネット通販物流の革新性（運輸と経済）』（林）、②『ミャンマーの貿易物流の課題－タイ・ミャンマー間の陸路貿易物流を中心にして』（石原）、③『中国現地調査予定』（宮武） 北京、満州里調査（8月26日～30日）：①京東物流 X 事業部におけるインタビュー調査（配達ロボット、ドローン配達、無人スーパー等）、②中国・ロシア国境鉄道貨物施設視察 第4回研究会（9月27日）：①『ネット通販急成長に対応したラストマイルの変化（物流問題研究）』（林）、②『物流革命－フィジカルインターネット（日経ビジネス）』（宮武）、③「諸外国における最新物流調査（北京、内モンゴル）』、④『アジア諸国のロジスティクスパフォーマンス指標』（石原） 第5回研究会（11月21日）：①『宅配便運賃値上げの影響』（林）、②『中国の物流プラットフォーム』（齊藤）、③『消費者の視点からの宅配便サービス評価』（宮武）、④『世界と日本のロードプライシング』（根本） 第6回研究会（1月31日）：①『GMS の物流の現状』（石原）、②『ミャンマーの貿易物流の課題』、③『コールドチェーン物流サービスの国際標準化』（根本）、④『中ロットユニットボックスを活用した実証実験』（橋本） 第7回研究会（3月18日予定・中止）：①『物流プラットフォーム概念の整理とアマゾンのマルチプラットフォーム』（林）、②本年度報告書のとりまとめ		
研究の成果（自己評価含む）： デジタルプラットフォーマーとの関係も含め物流プラットフォームの発展と概念を整理した。ネット通販事業者は自社物流プラットフォームを急速に整備し、そのプラットフォームを利用した物流サービスを提供し始めており、宅配便事業者や3PL等の物流事業者に影響を及ぼし始めている。物流プラットフォームでは、標準化、規格化が重要な役割を果たしており、コールドチェーン物流サービスの国際標準化にみられるように世界に先駆けて標準化を進めていくことが重要なことが判明した。当初の研究目的は概ね達成できた。		
今後の課題： 近年マルチサイドプラットフォームに関する研究が蓄積されているが、物流プラットフォームはなおも労働力に大きく依存し限界費用が高いなど、デジタルプラットフォームと異なる性質がある。今後、このような特性を重視して、物流プラットフォームの実態を明らかにするとともに、理論的な研究を深めていく必要がある。		